

令和2年7月

第2回大野市小中学校再編計画検討委員会
会議録

日 時：令和2年7月30日（木）午後7時00分～午後9時12分

場 所：結とぴあ 3階 305・306号室

第2回大野市小中学校再編計画検討委員会 次第

と き 令和2年7月30日

午後7時より

ところ 結とびあ

1 開会

2 開会あいさつ

3 議事

(1) 教育委員会の方針の再確認について

(2) ふるさと教育の方向性について

(3) 部活動運営等の方向性について

(4) 学校再編に対する各委員の思いについて

(5) その他

4 その他

5 閉会あいさつ

< 出席者 >

委員長	松	木	健	一
副委員長	遠	藤	洋	子
委員	中	村	昌	嗣
委員	松	田	寿	子
委員	朝	日	智	幸
委員	金	井	和	信
委員	山	川	龍	一
委員	常	見	悦	郎
委員	宮	澤	則	博
委員	細	道	常	貴
委員	丸	山	力	哉
委員	上	田	智	亮
委員	山	本	恭	子
委員	伊	藤	恵利	奈
委員	斉	藤	雄	次

事務局（説明者）	事務局長	清	水	啓	司
	教育総務課長	横	田	晃	弘
	学校教育審議監	千	田		佐
	教育総務課課長補佐	松	下	裕	子
	教育総務課課長補佐	小	林	勝	信
（書記）	教育総務課主事	堀		利	考

< 傍聴者 >

18人

【開会】

【事務局】 本日は18名の傍聴を許可したので報告する。それでは第2回大野市小中学校再編計画検討員会を開会する。

——<大野市教育理念の唱和>——

【開会あいさつ】

【委員長】 一向にコロナの感染が収まらない状況で、これからもさらにひどくなっていくことが予想されるが、コロナ禍の状況はワクチンができるまで数年は続くと思われる。その間に、経済構造や社会構造、教育の在り方も非常に大きく変化を示してくるようになると思われる。そして問題なのは元に戻らないことではないかと思っている。特に教育の世界にICT化が進んでくる。一度ICT化されたものは元には戻っていかないと思っている。大野市教育理念に「進取の気象を育てた明倫」とあるが、そのような精神が学校づくりに求められてくるのではないかと思う。本日は各委員の意見を聞いていきたいと思うので、お考えをお話しいただきい。

【議事】

【委員長】(1)教育委員会の方針の再確認について、事務局の説明をお願いします。
——<事務局説明>——

【委員長】 ご意見、ご質問等があればお願いします。

【委員】 資料 No.1 裏面に(4)「児童生徒に過度な負担が想定される等、必要な場合」とあるが、学校再編をするとある程度の負担が児童生徒にかかると思うが、「過度な負担」とはどのようなことを想定されているのか。

【事務局】 一例として、小学校は複式学級の解消に努めるという方針を掲げているが、再編(案)を策定した場合、スクールバスまたは通学時間がかなり多くかかるという場合に、考慮しなければならないという前提で一文を入れさせていただいている。検討を進めていく中で、他にも様々な負担がでてくると思うが、他と比べて極端に負担が大きい例として、スクールバスの例を挙げさせていただいた。

【委員】 スクールバス通学の他に、想定されていることはあるか。

【事務局】 昨年度実施した意見交換会やアンケート結果では、再編の際に通学することが不安という意見が多かった。通学の心配は単にスクールバスの距離だけではなく、歩く距離が短くなり子どもの体力がどうなるのかなど、通学に関する不安が大きかったので、スクールバスのことを一例に挙げさせていただいた。

【委員長】（２）ふるさと教育の方向性について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局説明>——

【委員長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

【委員】資料 No.2 の 2 ページ目、総合的な学習の時間の授業内容で、「富田の」とあるが、蕨生区の児童は富田地区のことを学ぶのか、自分たちが住んでいる地域のことを学ぶのか。

【事務局】富田地区の中に蕨生区も含まれているため、蕨生区も含めた富田地区のことを学んでいる。

【委員】資料 No.2 の 5 ページ目、総合的な学習の時間の目的に「各学校がふさわしい探求課題を設定する」とあるが、児童の興味関心についてふさわしい探求課題を、各学校が設定するのであれば、地域以外のことをしている学校もあると思うが、どれくらいの割合の学校が地域のことだけをしているのか。

【事務局】ふるさと学習については、資料 2 ページ目に記載の例をメインとして学んでいるが、年間をとおして、国際理解として ALT の自国のことを学んだり、ICT 教育としてパソコンの使い方を学んだり、福祉として施設を訪問したりなど、年間をとおしていくつかの活動があり、今回紹介したふるさと学習については総合的な学習のメインとして実施している。

【委員】学校を新しく作ることを目的にしていると思うが、地区をまたいで学校を新規に建てるとなると、公民館についてもどこどここの公民館が一緒になるのかわからない。地区の人と一緒にといっても難しい。資料に「公民館」との記載があるが、公民館は地域のためにあるので、学校と公民館は本来関係ない。市街地には児童館があり子どもをみているが、村部は児童館がないので公民館で子どもを預かっている。公民館は社会教育をする場なので、公民館で預かるよりは学校で預かる方がいい。地区をまたぎ大野市全体の中で学校を作るとなると、地域の行事などといっても机上で考えるのは難しいと思う。

【事務局】小学校 2 校という前提でお話をされていたように思うが、今回の資料については小学校 2 校、中学校 1 校という縛りではなく、再編を進めた場合に考えられること、という資料として作成しているためご理解いただきたい。公民館は市内 9 地区にあるが、五箇地区については既に小学校がなくなっている。これから進めていく再編では、各地区にあった小学校が各地区からなくなるといって再編に踏み込んでいく。現在、大野市では学校の再編を進めるが公民館については今までどおり各地区の拠点施設として置いておくという考えでいる。学校と公民館とは別だというのはその通りかもしれないが、学校が持っていた地域の拠り所といった機能が各地区からなくなると、その機能を公民館が受け皿となっていくのだという考えでいる。

【委員】今までは同じ地区の中で再編してきたので、各地域の行事などを統合した学校で教育の場として一緒にできているが、これが違う地区との再編となった場合には、非常に難しいのではないかと思う。

【事務局】ふるさと学習の方向性については、「大野らしさが生きる教育」を進めるという方針としている。再編を見据えて、大野らしさが生きる教育をふるさと学習として、現状の取り組みと、将来考えられることということで説明させていただいた。地区から学校がなくなると、統合した学校で地域の行事の受け皿となれるのか考えていかなければならない。2つの地区の小学校が統合した場合、両方の地区の行事を受け継ぐといったことも一つとして考えられる。そのようなことも含めて、学校、公民館、地域を考えていただきたい。

【委員】ふるさと学習について、地域という言葉が非常に多くでてきたが、大野市の小学校では地域コミュニティが確立していて、地域の人に学ぶということは活性化されていると思う。しかし、中心市街地でも商店街の衰退などがあり10年後、20年後にその地域にどれだけの人がいるか、10年後、20年後にふるさと学習を教えられる大人がどれだけいるかということが不安である。子どもに教えられる親を育てていくことも重要な課題ではないかと思う。

【委員長】地域創生を考えなければならぬ時代に、ふるさと学習はすごく重要なことだと考えている。その中で、大野市の教育大綱の中に盛り込んで進めていくのはとても良いことだと思う。小学校段階では地域の行事を取り上げて一緒にやるというのは良いことだと思う。もう一つ、中学校段階で大切なことがある。大野の明日の市民となるのは中学生。大野市の抱えている問題・課題を中学生が真剣に論議をしていくことが、明日の市民を育てていくことになると思う。そのようなことがふるさと学習の中に入ってくるといいなと思う。

【委員】下庄地区では様々な団体が下庄小学校・下庄公民館と協力して行事を行っている。小学校2校、中学校1校に再編された場合、今まで出来た行事が、学校・公民館と連携して出来るかどうか不安である。

【委員長】(3)部活動運営等の方向性について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局説明>——

【委員長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

【委員】補足説明となるが、基本的には大野市の中学校では、全員が何かの部活動やクラブに所属している。陽明中学校ではクラブ活動に週3、4回程度参加するのであれば部活動に準ずるものとみなすとしているので人数に差が出ている。中学校の部活動は中体連に加盟しており、中体連のルールでは、2校で合同チームを組む際には、どちらの学校も部員の数が試合に出るレギュラー人数に満たない場合ということを条件としている。学校の枠を解いて部活動をやりたいという希望はあるが、中体連が主催の公式大会には出場できない状態となっている。部活動の問題で非常に難しいのは、中体連のあり方を全国で考えないことには進まない。中体連の大会に参加できないと、生徒の目標がなくなり一生懸命できないと思う。その点も踏まえて部活動を議論しなければいけない。もう一点、部活動には免許がないので、すべての指導者がその競技の経験者というわけではなく、指導者が偏っていたり不足しているという実態がある。

【委員】大野市全体で一つの競技をやっていくとなった場合には、中体連の大会に出ることができるのか。また、全国的に地区や地域でそのような事例はあるのか。

【委員】大野市の方針として、部活動は各競技一つにしようとなっても、中体連の大会には学校単位でしか出ることはできない。地区や地域でやっているのはおそらくクラブチームになる。そこに学校として関わるのではなく、クラブチームとして地域でやっているのではないかと思う。

【委員】自分が中学生の頃にはクラブチームに所属しており、中体連の試合やオフィシャルな試合に出ることはできなかったが、エネルギーをつぎ込むところが欲しいことが大きかった。中体連の考えに固執していくと、今後時代に適応していくのは難しいと思う。部活をやる本人が主体の考え方があっていいのかと思う。

【委員長】(4)学校再編に対する各委員の思いについて、委員の発言をお願いします。

【委員】学校を新しく建てることが決まってから、アンケート結果の要望について考えていけばいいと思う。児童生徒数が多いと、いじめもあれば助け合いもあり、共同生活ができる。ある程度の人数の児童生徒がいて学校が成り立つ。再編については、まずハード整備について考えるべきで、父兄や地域のことを先に考えているのでは本末転倒ではないかと思う。

【委員長】地域の思いを吸い上げながら学校を作るというよりも、学校はどうあったらいいのかを論議して、その方向の中で全体像を作ってまとめていくべきではないか、という意見だったと思う。

【委員】児童生徒数の推移や、小中学校の現状、アンケート結果をみると、小学校2校、中学校1校は妥当だと思う。再編計画(素案)では段階的に再編をしていくとなっていたのが、急に小学校2校、中学校1校となったので市民は不安になったのではないかと思う。第3者の意見も踏まえて、市民の合意を得ながら早く再編を進めてほしい。

【委員長】小学校2校、中学校1校がいいとの意見だったと思う。

【委員】この委員会で、できるだけ多くの保護者の思いや声をこの場で代弁したいと思う。まわりの保護者は再編に関心のある人が少ない。この委員会が開催されていることを知っている人が少ない。今後は、各園の会長や園長の協力を得て、できるだけ多くの保護者の声を集めてお伝えしたい。

【委員長】この場でいくつか代表的なことをお話しいただきたい。

【委員】教員の心が豊かでないと、子どもたちに充実した教育ができないと思う。子どもたちに向ける気遣い以上に、教員の方々にも気遣いをお願いしたい。

【委員】学校再編は必要だと思うが、小学校2校、中学校1校というのは極端すぎて賛成できない。保護者として、1学年1クラス持てるような状況の学校に通わせたいと思う。現計画ではスクールバス通学1時間以内となっているが、

子どもたちには負担が大きく不登校につながる可能性もある。そういう部分も含めて考えていきたいと思う。15年後、20年後どのような時代になっているか全く想像つかないが、アンケート結果では学校がなくなると地域がなくなるといった意見などがある。固定概念に縛られているとなかなか前には進めない。この先、生き残っていくために何が必要なのか柔軟な発想が必要になってくると思う。子どもたちが楽しみにできるような計画を考えていきたい。

【委員長】複式学級の解消、通学時間は短く。複数小学校、複数中学校が前提で、新しい未来を創造する学校を考えていきたいという意見だったと思う。

【委員】小学校に2人、保育園に1人の子どもがいる。毎日元気に学校に行き、笑顔で帰ってくる子どもたちを見ていると、小学校の再編が本当に必要なのかなと感じる。小学校の上の子どもが野球を始めたが、通っている小学校のスポーツ少年団は人数が少なく、6年生が抜けると、このままではなくなってしまいう可能性がある。大野市全体の野球のチームもあるが、子どもは友達と野球をやるのが楽しいと言っている部分もある。一つの小学校というくくりから大野市全体のところへ行くと物怖じする部分はある。最初から大きい小学校で、ある程度の人数がいるところで子どもたちがやりたいことができる環境を作ってあげることが大切だと感じる。アンケート結果の思いなど、大人の思いを吸い上げようとしているように思うが、それが子どもにとって一番いい答えなのかと感じる。学校再編計画を見直していく中で、大人の思いは置いておいて、何が子どもたちにとって最良なのかを考えることが一番大切だと思う。

【委員長】再編には気持ちが揺れているが、子どもの思いを大切にしていきたいとの意見だったと思う。

【委員】学校再編は大事なことだと思うが、小学校2校、中学校1校は極端だと思う。学校教育ではICT化が進み、今後、子どもたちがどのように勉強していくかは想像できないが、教育の原点にある学校給食の充実を外せないと思う。大野市内の学校でも、自炊をしている学校は給食を残すことが少ないと聞いている。日本で初めて食育を提唱した、石塚左玄は大野市に深い関係を持った人物なので、食育に基づいた給食を作り上げていくことが、大野市のふるさと教育の一つだと思う。給食の充実や栄養教諭の配置状況、給食費の支援など、学校再編前の今からでも始められることを、少しずつ実行していくといいと思う。

【委員長】小学校2校、中学校1校は反対で、食育について論議していくことが必要との意見だったと思う。

【委員】学校再編計画ができた当時、大野市には住んでいなかったが、小学校2校、中学校1校というのは衝撃で、大野市出身として寂しく思った。今回委員となり、大量のデータを見ていると、学校再編は、児童生徒数や築年数を見てみると必要なことだと感じる。学校の今後の在り方や成すべきことを考えていくと、学校へ行き、他人と共同の生活をするすることで、世界が広がるのではないかと感じる。学校はある程度の人数が必要で、そこで経験することが長い人生

で大事になってくると思う。大野らしい教育を考えたときに、おじいちゃん、おばあちゃんとの距離が近い。核家族が増えて、人口が減ってはいるが世帯数がそれほど減っていないところを見ると、核家族で家を別に買っているなどがあると思う。地域から子どもがいなくなる根拠データとして、世帯数がここ 10～20 年ぐらい、どの地区に多く集まっているか。どの地区からどの地区に新しく家が建てられているかを資料として作成すると新たな視点になると思う。私自身、データを見て学校再編が必要だと感じたので、納得解を得るためには客観的にわかるデータが必要になってくると思う。

【委員長】学校には一定数の集団が必要で、そのためには再編が必要。3 世代の問題について、検討してみる必要があるとの意見だったと思う。

【委員】学校再編計画を見て、中学校が 1 校だと、子どもの荒れや発達障害などに対応しきれんかどうかが気になった。小中学校の段階で少し人数を減らして、きめ細かく指導ができると状況が変わると思う。できれば中学校は 2 校以上あるといいと思う。発達障害の子どもたちに、きめ細かな対応をするためには、教員の人数等も含めて、小規模校の方がいいと思う。論文では、不登校の子どもたちに効果がある方法として小規模は妥当であるといったものがあった。高校の学校再編もこれから始まるが、地域に学校を残すということは重要だと思う。遠隔通信は便利で、部活動の指導や他校との連携など、学校教育に応用できるので、ICT 化を進めていくことが必要だと思う。

【委員長】インクルーシブ教育、ダイバーシティの対応を考えたら小規模校がいいのではないかと。ICT の活用が必要だとの意見だったと思う。

【委員】大野市内に 15 小中学校があるが、どの学校も大変良い教育をしている。これが、小学校 2 校、中学校 1 校になっても変わらず、大変良い教育をすると思う。福井県の教員は教育活動にまじめに取り組んでいて、その成果が表れているのが今の子どもたちだと思う。小規模校では目が行き届いて良い教育ができる、大規模校はそうではないと決めつけをするのは、やめるべきだと思う。前回の会議で免許外教員のことが出たが、どの教科も専門の教員が必要である。学習指導要領に見合った、平等な義務教育を公の教育として実施している以上、専門の教員が中学校では必要だと考えている。

【委員長】専門外教員が配置される規模の大きさは問題がある。学校の大きさと教育の質が変わることはないとの意見だったと思う。

【委員】コロナ禍で在宅勤務やテレワークが増えているが、一番似合わないのが教員だと思う。学校という場で対面し、関わる中で児童生徒が育っていく。関わって育っていくということを考えると、小学校は各学年 2 クラス以上、中学校は各学年 4 クラス以上必要だと思う。学校再編と街づくりを考えると、旧 2 町 5 村の枠組みを外れた新しい校区になるので、必然的に新しい街づくりに繋がっていく。和泉地区については、和泉地区の児童が大野盆地に通ってくるのは過度な負担になる。そこで、和泉の自然を活かして、義務教育学校や小中一

貫校としてカリキュラムを編成し、他市町の、学校のシステムや価値観になじめない子どもたちを受け入れるなど思い切ったことをやってみてはどうかと思う。大野盆地の中は、小学校 4 校、中学校 2 校程度が妥当だと思う。学校と社会が融合して、校区の人達と話しをしながら新しい学校のカリキュラムを考えていくことがきっかけとなって、地域の人が学校へ行こうと思ってもらえるといいと思う。コロナなどの感染症が出てきている中で、知識を補う上で途切れないように ICT の整備は進めていかないといけないと思う。

【委員長】一定数の子どもの数は必要で、課題解決型の授業の中で、答えのないようなものにも取り組むような学校にしていきたい。和泉地区については、小中一貫校がいいのではないか。カリキュラムについては大胆な改革をやってみてはどうかとの意見だったと思う。

【委員】小中学校の再編の必要性を感じているが、現計画の小学校 2 校、中学校 1 校は極端だと思う。議事(3)で部活動の運営等の方向性についての議事があったが、子どもたちがやりたい部活ができないという状況は、可能性をつぶしていると思う。生徒が部活動を選択できる環境を、大人が作る必要があると考える。再編が決定し、実際に動き出すまでには時間がかかると思う。部活動の問題は、今の問題でもあるので、再編計画の検討にあわせて、部活動の在り方や子どもたちの可能性を広げる、選択できる部活動の運営方法について少しでも前に進めるといいと思う。それが繋がって再編の問題も前に進めると考えている。部活動は中体連の問題があるが、中学校単位にとらわれず、大野市全体で部活動を行うことで選択肢が増え、在籍する中学校に希望する部活がないという理由だけで活動ができないことは解消されると思う。また、中学校の基本方針「市全体で育てる」に繋がっていくと思う。

【委員長】学校再編は必要。部活動も子どもたちが望む活動をさせてあげたい。学校再編と部活動は、まずは切り離して考えた方がいいのではないかと意見だったと思う。

【委員】少子化のために再編は進めていくべきだが、小学校 2 校、中学校 1 校はいきなり減らしすぎなのではないかという意見が多い。生徒数が増えることで、一人一人に目が行き届かず、いじめなどの問題が起きるのではないかという不安がある。中学校は多感な時期なので、最低 2 校は必要ではないかと考える。小学校では、登下校時に地域の人が見守ってくれている。地域で育てるという意味でも 4 校は必要だと考える。将来的に更に少子化が進み、更に校数を減らす時がきたら、学校を高齢者施設として利用してはどうかと考える。和泉地区は、冬場のことも考えて、小中学校として 1 校残した方が良いと考える。登下校に関しても不安の声が多く、スクールバスの運行について具体的に知りたい、痛ましい事件や事故があるので安全を第一に考えてほしい、放課後子ども教室を地区に残してほしいなどの意見が聞かれる。再編に限らず、緊急時などの対応としてオンライン学習の環境を早急に整備してほしい。学校の建設候補地に

についても知りたい。学校のデザインは子どもたちの意見を聞くなど、子どもたちが行きたいと思える学校を作ってほしい。また、学校再編をした他の自治体の成功事例があれば知りたい。

【委員長】小学校4校、中学校2校程度がいい。安心して安全な、地区との関係を築いていける学校にしたいとの意見だったと思う。

【委員】小学校2校、中学校1校の案には反対だった。学校再編で、子どもたちが幸せな学校生活を送れるのか、大人になって大野市に戻ってきたいと思えるような教育が受けられるのか疑問だった。学校再編のアンケートで目に付いたのは、子どもたちが今現在のクラス数で満足しているのではないかという点である。子どもたちは現状に満足していて、再編を望んでいるのではないと思う。地域の説明会の参加人数を見ても、村部と町中で大きな差がでていいる。この結果を見ると、村部の方が地域と子どもたちのかかわり方が深くて、地域と子どもたちの繋がりや強さを表しているのではないのかと思う。中学校では、専門教科教員がいない、人数の都合で部活動の種目がないなど、少人数における限界や弊害が見受けられ、子どもたちに良い環境であるとは思えない。様々な意見を踏まえて、小学校の再編と中学校の再編は分けて考えた方がいいと考える。中学校については、上述した見解や弊害があるので速やかに再編すると良いと思う。中学校は2校が妥当だと思う。中学生になると、村部の生徒も自転車で町中に出たりするので、スクールバスは不要だと思う。また、町中に中学校を建てる必要もないと思うので、村部に学校をもってくるのも一つの考えだと思う。小学校については、複式学級は特別措置であるので、再編が望ましいのかなと思う。大人は登下校にスクールバスをというが、小学校はできるだけ歩いていける距離で、地域の方々が愛着を持ってもらえる環境で育ててあげたいと思う。

【委員長】小学校と中学校の再編は切り離して考えた方がいい。中学校は村部にもってきてもいいのではないか。小学校は複式学級を解消すべきだが、各地域に学校を残してほしいとの意見だったと思う。

【副委員長】with コロナの時代、大学などではオンラインの授業が当たり前となっているが、小学生や中学生にとっては、学校という同じ空間の中で、共に学び合える仲間がいるということが一番大切だと感じている。小学校、中学校で子どもたちの姿を見ているが、休校が続いた後、子どもたちが学校に揃うことができたとき、子どもたちは満面の笑顔で、学校の良さを実感していた。学校に通うという当たり前が出来なくなって、初めて子どもたちは、学校や友達の良さを強く感じたのではないかと思う。小学校の低学年でさえ、自分と自分の大切な友達を守らなければならないと、新しい生活様式を理解し、守っている。ただ知識や技能を身につけるのではなく、仲間と共に学び、共に磨き合い、共に高め合う、そういう場でこそ、真の学びの力も、生きる力も育つのではないかと思う。自分も仲間も大切にし、互いに磨き合いながら生きる力を高めてい

く大野っ子を育てるためには、子どもたちが共に学べる場があり、そこで多様な人間関係を経験することができ、その中で自分のことももう一度見つめ、成長していくことが必要だと改めて感じた。

【委員長】各委員の意見は筋が通っているが、隣通しでは筋が通らなくなる、それをどのように合意形成していけるかが楽しみである。議事については、以上とする。

【事務局】各委員の意見を参考に、次回からの議論につなげていけるように準備を進めていく。次回の会議では、中学校の再編について協議いただきたいと考えている。

【事務局】次回の会議は8月27日（木）を予定している。

【閉会】

——<副委員長あいさつ>——

【副委員長】本日はたくさんの貴重な意見に感謝する。次回も活発な意見を願いたい。